

審査の結果の要旨

氏名 小山 友里江

本研究は、変形性股関節症(以下、変股症)で、寛骨臼回転骨切り術(Rotational Acetabular Osteotomy, 以下、RAO)、人工関節全置換術(Total Hip Replacement, 以下、THR)を受けた患者を対象として、術後の経過、抑うつ、HR-QOL を評価することを目的としたものであり、下記の結果を得ている。

1. RAO 群では、術後現在の病期が前・初期であった対象者が片側罹患群、両側罹患群ともに5割以上いた。RAOは変股症の進展を予防することができる手術として期待されており、術後経過年数が平均10年以上で、進んでいない病期の対象者が半数以上であることから、今回の対象者に関しては、術後成績は狙い通りの結果を得られていると考えられる。
2. RAO 群の JOA スコアは片側罹患群、両側罹患群ともに、術後20年未満まで80点台を保っていることが確かめられた。
3. CES-D 得点は、RAO 群の片側罹患群では全体の12.8%、両側罹患群では18.6%がカットオフ値16点を上回っていたが、RAO 後抑うつが多く発生しているとはいえないと考えられた。
4. HR-QOL 得点を経過年数別に検討した結果からは、RAO 群の片側罹患群に関しては、身体面は疼痛も含め一般人と変わらない HR-QOL を保つことができていた。両側罹患群では身体面の HR-QOL は術後も一般人よりは低い値であること、15年以上の長期例では HR-QOL は一般人に比べると低い値になることが明らかになった。
5. THR 群の JOA スコアは、片側罹患群では5年以上10年未満をピークとして緩やかに減少する傾向にあった。両側罹患群では経過年数がたつにつれて、スコアが統計的に有意に低くなっていた。片側罹患群では JOA スコアは術後15年以上20年未満でも80点台を保っており、両側罹患群では70点近かった。
6. CES-D 得点は、THR 群の片側罹患群では全体の26.4%、両側罹患群では19.0%がカットオフ値16点を上回っていた。
7. HR-QOL 得点を経過年数別に検討した結果からは、THR 群の片側罹患群ではどの経過年数においても、統計的に有意な差はみられなかった。今回は術前のデータと比較することはできないが、末期でTHRを受けた場合、手術により HR-QOL が有意に改善するという可能性を現しているものと考えられる。

以上、本研究は、変股症で RAO、THR を受けた患者の経過、抑うつ、HR-QOL を測定することで、術後の現在の経過、抑うつ、HR-QOL を明らかにした。本研究は、これまで長期経過した術後患者の報告がない中で、術後現在の経過、HR-QOL を詳細に明らかにした点で、学位の授与に値すると考えられる。